

事業所名 **グループホーム東倉敷**

日付 **平成18年2月22日**

評価機関名 **特定非営利活動法人
高齢者・障害者生活支援センター**

評価調査員 ① **介護支援専門員・介護福祉士**
② **精神障害者ホームヘルパー**

自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)

評価項目内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)

事業者のコメントを見る
(評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります) ※

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目 **グループホームとしてめざしているものは何か。**

個人個人の思いである、家庭的雰囲気作りがあり、その生活の中にニーズがある。ホーム生活、外出等あらゆる場面で発言、気持ちをいち早くとりいれ理念を基本に介護従事者は、要介護者の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、家庭的環境の下で自立した日常生活を、自己選択、希望通りの入所生活、要望に合った入居者のケア実現をめざしている。

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり	○	
3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
4	建物の外周りや空間の活用	○	
5	場所間違ひ等の防止策	○	

記述項目 **入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。**

利用者が色々な居場所を自己選択できるよう、プライバシーを守り自由に生活工夫されている。テレビを鑑賞する人、愛犬と戯れる人、新聞を見る人皆々好きなスタイルで居住空間を自然きままに過ごす生活支援の場づくりである。

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

静かな新興住宅に位置し、セラピードックが各ユニットに飼育され、入居者、スタッフに愛嬌を振りまく。入居者、介護従事者、来客者等にワンステップした精神的ゆとりをもたらし全体に暖かい支援づくりが織り込まれている。

男性職員のさりげない声掛けと、メモを広告でつくったのコミュニケーション作りの姿勢は温もりのある介助であった。

個別援助計画作成も、人権、尊敬、個別性、選択肢、入居者、家族の希望を大切にした自立支援、自己決定を大事にしたケアプラン作成であり、2ヶ月1回の見直し並びに前期末期と1年間を分け課題、目標、利用者本人の意に向けたサービスをする介護従事者の質向上に努め、管理者スタッフの意思統一を図りサービス提供をしている。

毎月発行の「はれときどきくもり(良い時もありいやな時もある)」「つばやき」イラストを入居者が気ままにぬり、ホームの日々の生活、ケア記録を同封発送し、ご家族とホーム全体の情報共有も積極的に取り組み、又町内自治会にも入会し地域交流に努力している。

特に改善の余地があると思われる点

地域住民の方々との交流に、今後とも積極的に取り組まれますことを期待します。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目 **一人の力と経験の尊重やプライバシー保護の為に取り組んでいるものは何か。**

週1回の食事作りは全員役割分担(食材購入、献立、調理する人、配膳など)、入居者と介護従事者とのコミュニケーション作りに役立て信頼の絆になっている。個人自身の自由選択を重視し1人ひとりの生活歴と経験を尊重、プライバシーを大切にされた支援作りを取り入れている。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目 **サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。**

苦情問題を速やかに解決方法するため、苦情カードを作り、職員共通問題として取り組んでいる。家庭環境を整えて家庭的に日常生活を送る配慮づくり。介護従事者の働き良い場所、意識改革に取り組む人材育成をめざしている。